◈ **学会報告**

1） 日比野康英，藤井謙一，塚田修市，菅野延彦：高度反復配列湾曲ＤＮＡに親和性を示す細胞核 scaffold 蛋白質の諸性質．日本生化学会北陸支部第12回例会，1994，5，金沢．

2） 草塩英治，日比野康英，寺川敏且，菅野延彦：ラット肝細胞核内に存在するシスプラチン損傷DNA認識蛋白質の精製とその諸性質．日本薬学会北陸支部第90回例会，1994，6，金沢．

3） 日比野康英，藤井謙一，塚田修市，菅野延彦：高度反復配列湾曲ＤＮＡに親和性を示す細胞核 scaffold 蛋白質の諸性質．第67回日本生化学会大会，1994，9，大阪．

4） 草塩英治，日比野康英，寺川敏且，菅野延彦：ラット肝細胞核内に存在するシスプラチン損傷ＤＮＡ認識蛋白質の精製とその諸性質．第67回日本生化学会大会，1994，9，大阪．

5） 日比野康英，草塩英治，菅野延彦：シスプラチンによるラット肝培養細胞のDNA修復亢進．第53回日本癌学会総会，1994，10，名古屋．

6） 菅野延彦，日比野康英，小池淳平，小西良武，田畑智之，大橋康宏：椎茸菌糸体培養で得られる多糖蛋白質画分（LAP1）によるＩＦＮ-γと窒素酸化物の産生誘導．第53回日本癌学会総会，1994，10，名古屋．

7） 日比野康英，寺川敏且，草塩英治，神内伸也，菅野延彦：シスプラチンによるラット肝培養細胞のＤＮＡ修復亢進作用．日本薬学会北陸支部第91回例会，1994，12，富山．

英　　語

教　　授　藤　本　正　文
助 教 授　松　倉　　茂
外国人教師　ジリアン・Ｓ・ケイ

◈ **研究概要**

（藤本）英米文学、批評理論
（松倉）意味論（語用論を含む）
（ケイ）Status, Role and Expectations of Foreign Teachers in Japanese Universities; Vocabulary ; English Language Teaching Methodology

◈ **原　　著**

1） 藤本正文：英和辞典に記載が望まれる基本的単語の語法 ── any, best, compare, give, in, that, turn をめぐって．富山医科薬科大学一般教育紀要 16：27-44，1994.

2） Matsukura, S. : Inference and logical analysis of sentences. 富山医科薬科大学一般教育紀要 16：11-26，1994.

3） Kay, G., Formal and Informal Expectations of Foreign Teachers at Japanese Universities, The Language Teacher, pp 4-6, 30. vol. 18, No. 11, 1994.

◈ **そ の 他**

1） Kay, G., From the Chair, ON CUE (news letter of College and University Educators). June 1994 pp 3-5.

2） Kay, G., From the Chair, ON CUE. Dec 1994. pp 3-5.

3） Kay, G., Nationwide Survey of Gaikokujin Kyoshi Employment Status, ON CUE. Dec 1994, pp 14-16.

独　　語

講　師　名　執　基　樹

◈ **研究概要**

18世紀以降，文化と社会との関係は著しく変化した．それまでは,特定（伝統）文化を維持する事によって社会は構造化されてきたが，社会そのものが「文化」を生産するようになってきたのである．知識人や作家といったそのための社会的役割の職業的確立，文化媒体としてのさまざまなメディアの発展と普及，それを受け入れる広範な読者・視聴者層の成立と増大，さらに，文化生産そのものについての情報生産を受け持つ機構の登場（文芸評論・文芸欄），こうしたものがこの変化の具体的背景をなす．１）こうした歴史的推移を研究しつつ，その方向性を探るともに（文芸社会史），２）日本とドイツを中心とした外国の場合と比較する事（国際文化システム比較）が私の研究活動である。目下，文化生産における作家の（経済的，社会的）位置づけをめぐる北海道大学の研究グループの調査に参加している．

◈ **原　　著**

エバーマン，Th. &トラペルト，R. 「ラディカル・エコロジー」社会評論社，田村光彰ほか訳，1994年（共訳）